

江別市大学連携調査研究事業実施報告書
地域活性化のためのメディアアートプロジェクト

北海道情報大学 情報メディア学部 情報メディア学科 安田光孝
北翔大学 教育文化学部 芸術学科 浅井貴也

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナと呼ぶ）は、我が国において令和2年（2020年）1月15日に最初の感染者が確認され、その後2年以上にわたり、市民生活に大きな影響を与えてきた。このコロナ禍では不要不急の外出自粛が余儀なくされ、人が集まり、話すことも自粛するよう強く政府から要請された。これら制約の多い生活の中で、不安やストレスを感じる市民は少なくない。NHKが全国の18歳以上（有効数2331人）を対象に令和2年（2020年）11月から12月に実施した調査^[1]によれば、感染拡大前と比べて、ストレスを感じる人が「大幅に増えた」人は14%、「ある程度増えた」人は53%で、67%の人がストレスを感じる人が増えたと感じている。何にストレスを感じるかについての回答を見ると、「気軽に遊びに行けないこと」が75%で2番目に多く、「行事やイベントが中止になること」が52%で6番目に多かった。江別市においても令和2年（2020年）から3年（2021年）にかけて多くの行事やイベントが中止に追い込まれ、市民の中に不安やストレスを多く感じている人が多くいるのではないかと考えられる。

一方、このような人のストレスに対し、有効に働く手段がないかと考えたとき、芸術鑑賞はひとつの効果的な手段となりうる。慶應義塾大学の川畑英明は、芸術鑑賞は「快」を得たり、意欲を起こしたりして、その結果「幸せ」を感じる人間のいとなみのひとつだと指摘する。^[2]

そこで、本事業では、「アート（芸術）」が、ヒトに幸福感を与えることに注目し、コロナ禍においても江別に「明るさ」や「元気さ」を提供し、地域を活性化する手法としてアート展示をすることを考えた。また同時に、江別の市民に対し、今回のアート展示が市民の気分を高めることができたかを評価し、また、コロナ禍で市民がどのように「アート」を求めているかのニーズの調査を行った。

2. 江別市内のアート・デザイン系大学

江別市には4つの大学があり、その中でアート・デザイン分野を扱う大学は2つある。ひとつは、北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科の中にあるメディアデザイン専攻である。もうひとつは、北翔大学教育文化学部の中にある芸術学科である。この2つの大学はそれぞれ特徴的な視点からアート・デザインの分野に切り込みを入れている。北海道情報大学は名前のとおり、情報系の大学でICT（情報通信技術）を主な研究対象と

[1] 原美和子, “新型コロナは私たちの暮らしや意識をどう変えたか,” 放送研究と調査, pp.2-30, 2021.

[2] Kawabata H. and Zeki S., “Neural Correlates of Beauty,” Journal of Neurophysiology, Vol.91, pp.1699-1705, 2004.

する。コンピュータを使ったメディアアート系の表現が得意といえる。^[3]いっぽう、北翔大学は美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の5つの分野で幅広く芸術・デザインを扱っている。特に服飾と舞台芸術は北海道の大学では稀な専門領域である。^[4]今回のアート展示は江別のこの2つの大学の学生の作品を展示することとした。

3. 展示について

江別市内2つの会場で展示を行った。ひとつは、JR野幌駅構内パブリックスペース（以下、JR野幌駅会場という）で、もうひとつは、イオンタウン江別センターコート（以下、イオンタウン会場という）である。ともにアート作品の展示をするのは初めての場所である。展示場所の選定は、コロナ禍もあり、人の流れがあり、かつ、広く開けた空間であることを条件とした。江別市内の既存イベント施設は閉じた空間が多く、また、休館中の施設も多かった。ゆえ、上記の2会場を選定した。加えて、まちなかで日常生活をしながらアートに触れられる機会を作りたいという思いも選定の理由であった。

展示する作品は江別市内の北海道情報大学と北翔大学の学生が制作したものとした。制作はコロナ禍であることを考慮し、学生が大人数で制作するものは避け、個人や少人数でできるもの、あるいは、既に制作が完了しているものを集めての展示とした。展示作品の特徴と数を考慮し、JR野幌駅会場に北海道情報大学の作品、イオンタウン会場に北翔大学の作品を展示することとした。

展示イベントの名称がなかったため、「江別スチューデント・アート・フェスタ（英語名称：Ebetsu Student Art Festa）」と名付けた。展示イベントのロゴも作成した（図3-1, 3-2）。ロゴのベースの色は、江別市の木である「ナナカマド」の色を少し若者向けに鮮やかにし、文字の色は、江別市の花「菊」の黄色とした。ロゴは2つの展示会場に掲示し、ポスター等にも使用した。

展示イベントの開催日時は以下の通りである。

日時：令和3年（2021年）10月30日（土）、31日（日）

JR野幌駅内パブリックスペース 10時～17時

イオンタウン江別センターコート 9時～18時

[3]北海道情報大学情報メディア学部, <https://www.do-johodai.ac.jp/faculty/im/infomedia/>, 参照 Mar. 20, 2022 P. 2

[4]北翔大学教育文化学部芸術学科, <https://www.hokusho-art.com/>, 参照 Mar. 20, 2022



図 3-1. 四角型のイベントロゴ



江別スチューデント・アート・フェスタ

図 3-2. 横型のイベントロゴ

3.1 JR 野幌駅構内パブリックスペース

JR 野幌駅の協力が得られ、駅構内の改札を出た右側のパブリックスペースを借りることが出来た（図 3-4）。この会場には、北海道情報大学情報メディア学部安田光孝研究室の学生が制作した作品を展示した。5 人の学生チームをつくり、7 月から準備をはじめ、10 月までに会場の装飾のデザインと以下の 3 つの作品を制作した。また、展示当日も作品説明を行った。

- 1 大型イラスト作品「僕の花丸」 制作：嶋田后彩樹（図 3-3 写真中央）
- 2 プロジェクションマッピング映像作品「撮り合う 2 人」 制作：嶋田后彩樹（図 3-3 写真向かって左）
- 3 プロジェクションマッピング映像作品「ねこのみーくん」 制作：嶋田后彩樹（図 3-3 写真向かって右）



図 3-3. 展示の様子（正面から）

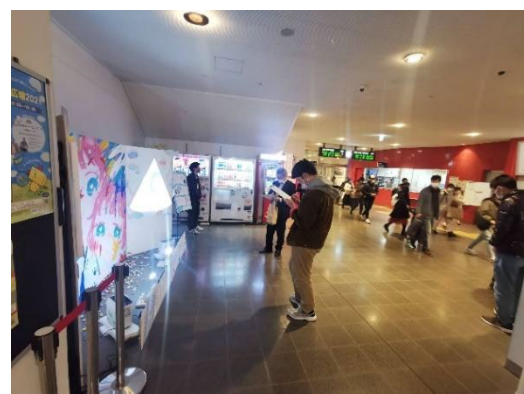


図 3-4. 展示の様子（横から）



図 3-5. 展示の様子（正面から2）



図 3-6. 展示の様子（横から2）

3.2 イオンタウン江別センターコート

イオンタウン江別からの協力が得られ、通常は催事に使用しているセンターコートのスペースを借りることが出来た。この会場には北翔大学の芸術学科の学生の作品を展示した。展示名称は「北翔大学 教育文化学部 芸術学科 学生作品展」とし、芸術学科1年生から4年生までの今まで制作した作品を集めた総合的な学生作品展となった。開催2日目が10月31日ため、装飾はハロウィーンをテーマとした。展示した作品の合計は43点で、内訳は美術分野から13点、メディアデザイン分野から11点、インテリア建築分野から6点、服飾美術分野から4点、舞台芸術分野から9点である。展示には21名の学生が参加し、会場装飾に加え、受付と作品説明を行った。



図 3-7. 展示の様子（正面から）



図 3-8. 展示の様子（上から）



図 3-9. 展示の様子（斜め正面から）



図 3-10. 作品（パッケージデザイン）



図 3-11. 作品（キャラクター）



図 3-12. 作品（絵画）

4. 会場でのアンケート調査

2つの展示会場にて展示を行ない、来場者に対し回答の承諾を得た上でその場で記入してもらった。コロナ禍であったため、筆記用具などは毎回消毒をし、また、距離を保ち対応するなどの感染対策を行った。

アンケートは性別、年代などの属性に加え、5項目の設問とした（付録1）。アンケートでは、展示作品の評価のほかに、鑑賞で気分が高揚したか、また、江別でアートに触れるニーズにどのようなものがあるかを選択式と記述式で尋ねた。コロナ禍であったため、あまり時間を取られないよう設問数は最小限とした。

4.1 アンケート結果（属性）

アンケート回答者は合計116人で、JR野幌駅会場が35人、イオンタウン会場が81人であった。回答者の性別、職業、住まいは、表4-1、4-2、4-3のとおりである。性別では女性の方が多く、年代では10代と60代以上が比較的多いが、他はほぼ同じ割合で分布している。職業は、会社員、主婦、学生が同じ程度の割合で多く、次にパート・アルバイトと無職が多かった。回答者のおよそ4人に3人が江別市内に住まいがあった。

表 4-1 性別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	不明	合計
男	7	9	5	2	4	13	2	42
女	14	9	8	14	13	11	1	70
未回答	0	0	1	1	0	1	1	4
小計	21	18	14	17	17	25	4	116

表 4-2 職業

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	不明	合計
会社員	0	6	5	3	8	4	1	27
会社役員	0	0	0	1	0	0	0	1
公務員	0	1	1	2	1	3	1	9
自営業	0	0	2	1	0	2	0	5
主婦	0	3	4	4	5	5	0	21
パート・アルバイト	1	1	1	5	2	1	1	12
学生	18	7	0	0	0	0	0	25
無職	2	0	0	0	0	9	0	11
その他	0	0	0	0	1	1	0	2
未回答	0	0	1	1	0	0	1	3
小計	21	18	14	17	17	25	4	116

表 4-3 住まい

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	不明	合計
江別市内	13	9	9	13	11	20	1	76
江別市外	7	6	1	3	6	3	0	26
未回答	1	3	4	1	0	2	3	14
小計	21	18	14	17	17	25	4	116

4.2 アンケート結果（アート・デザインへの関心）

回答者がどのくらいの頻度でアート・デザイン系の展示会に足を運ぶかを図 4-1 に示す。「観ない」と「ほぼ観ない」と答えた人が61名で全体の半数以上が普段からそのような展示を観に行かないことが分かる。しかし、5人にひとり、年に3～4回の頻度でアート・デザイン系の展示を観に行っており、また、週に1度観に行くと回答した人もいた。年代でみると、年齢が高くなるほど、展示を観に行く人が多くなる傾向があることが分かった。60代以上の人は定年退職者が多いと推測され、比較的時間の余裕があると思われる。その中で、30代、40代、50代の年齢層が年に3～4回観に行っていることは、それらの代にアート・デザインへの関心が高い人がいることを推測させる。

Q1 アート・デザイン系の展示会（含むオンライン展示）などをどのくらい観に行きますか？

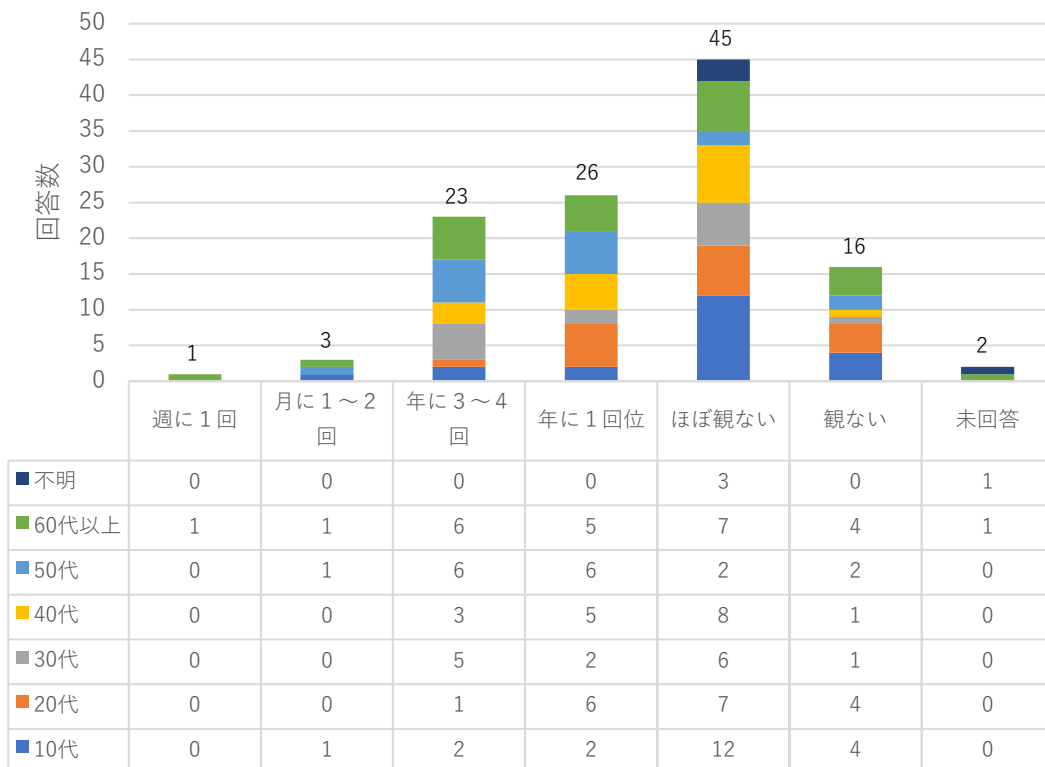


図 4-1 アート・デザイン系展示会を観に行く頻度

4.3 アンケート結果（作品展示への評価）

それぞれの会場での作品展示への評価を会場ごとに分けて示す。

4.3.1 JR 野幌駅会場（北海道情報大学）での展示への評価

図 4-2 と表 4-4 に JR 野幌駅会場での北海道情報大学の作品展示への評価について回答を示す。「Q2 の作品展示はいかがでしたか？」の問いに、97%の人が「とてもよかった」「よかった」と回答した。

アンケートの Q3 にて、その理由を自由に記述してもらった。展示会場そのものへの記述としては、「駅内が明るく感じたから。」「駅の中でパッと目につく明るい印象が良いと思った。」「改札から出て、気になって足をとめました。静止画、アニメーション、動画色々あって、楽しいなーと思いました。」「今まで見たこともない展示でした。」との回答があった。駅構内での初めてのアート展示であったため、存在自体が目を引き、足を止めてくれた人が多かったと推測する。

展示作品への評価では、「実写動画とアニメーションを組み合わせた作品がおもしろかったです。」という回答が多く、デジタルとアナログを組み合わせた作品が新規性を与えたのではないかと考える。また、「色鮮やかで見ていてとても芸術的だと感じました。」「色遣いが心地の良いもので素晴らしいなと思いました。」などの記述があった。これらに関しては、意図的に鮮やかな色彩の作品を作ったことが効果的に働いたと考える。

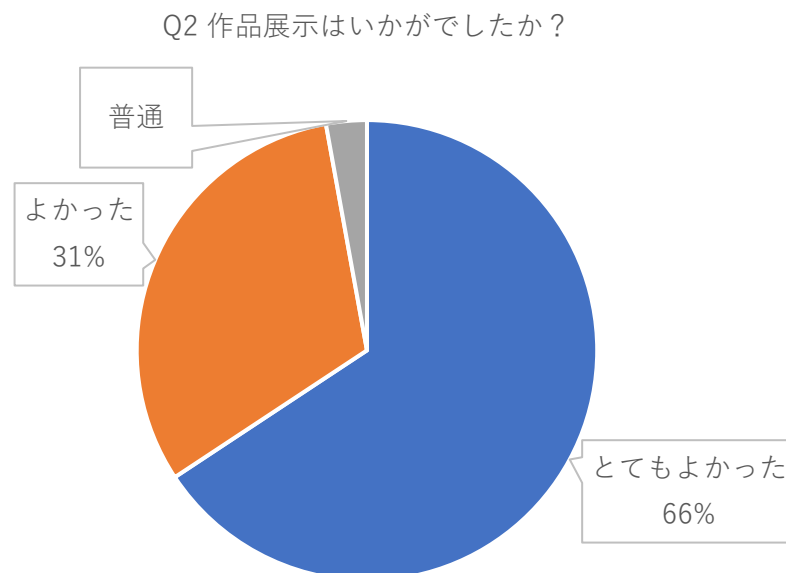


図 4-2 作品展示への評価（JR 野幌駅会場）

表 4-4 作品展示への評価（JR 野幌駅会場）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	不明	合計
とてもよかった	5	5	5	1	1	5	1	23
よかった	2	2	2			2	3	11
普通						1		1
悪かった								0
とても悪かった								0
未回答								0
小計	7	7	7	1	1	8	4	35

4.3.2 イオンタウン会場（北翔大学）での展示への評価

図 4-3 と表 4-5 にイオンタウン会場での北翔大学の作品展示への評価について回答を示す。「Q2 の作品展示はいかがでしたか？」の問いに、94%の人が「とてもよかった」「よかった」と回答した。

アンケートの Q3 にて、その理由を自由に記述してもらった（付録 2 参照）。展示会場そのものへの記述としては、「一口にアートと言っても、色々な種類（絵だったり、モノだったり）があって面白かった。」「色々なジャンルの作品があって良かったです。色々あると楽しいですね。」「学生たちの活動が見えて良かったです。」「ショッピングセンターにこのような展示をしているのがとても新鮮でした。」との回答があった。北翔大学の展示は、美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の 5 つの分野の展示であったため、その種類の多さが楽しさを産んだのではと考える。また、通常はワゴンセールをしている会場であるため、そこに初めてアート作品を展示したことは人々に新鮮な驚きを与えたのではと推察する。

展示作品への評価では、「驚くほど細かく、丁寧で綺麗な作品なので、とても良いと思いました。」「独創性があり目を引く作品が多いと思いました。」「子どもと一緒に作れそうなものもあり良いと思います。」などの記述があった。今回展示した作品は、それぞれの学生が長い時間をかけて作り上げてきたものが多く、その意気込みが作品ににじみ出ており、そこが評価されたのではと考える。

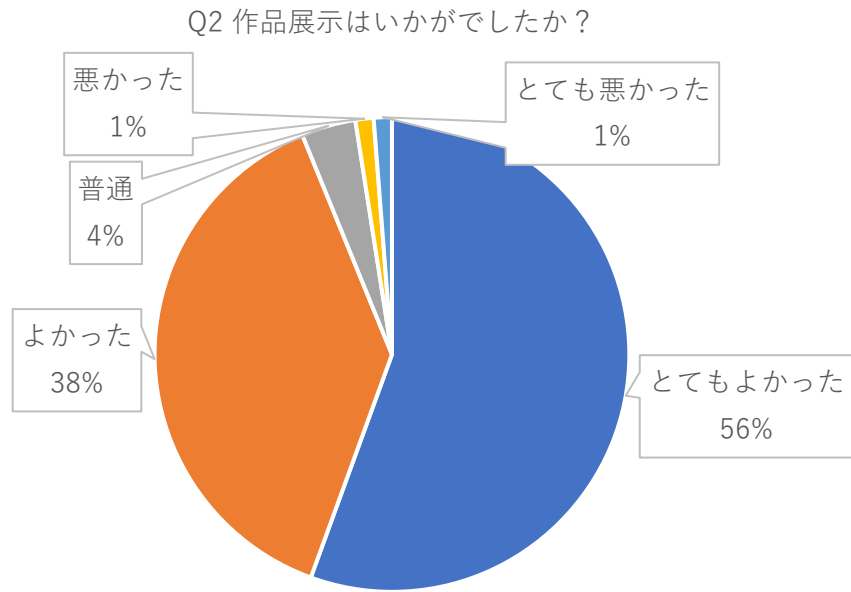


図 4-3 作品展示への評価（イオンタウン会場）

表 4-5 作品展示への評価（イオンタウン会場）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	合計
とてもよかった	12	9	4	6	7	7		45
よかった	2	2	3	10	7	7		31
普通					2	1		3
悪かった						1		1
とても悪かった						1		1
未回答								
小計	14	11	7	16	16	17	0	81

4.3.3 展示による気持ちの変化

図 4-4 と表 4-6 に作品展示を観て気持ちに変化したかの結果を示す。97%の人が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した。これにより、展示を見てくれた人の気持ちを少しは明るく楽しくできたのではと考える。一方、「楽しくなかった」と回答する人も 1%おり、理由を聞くことは出来なかったがどのような点を不満に思ったのか、検討してみる必要がある。

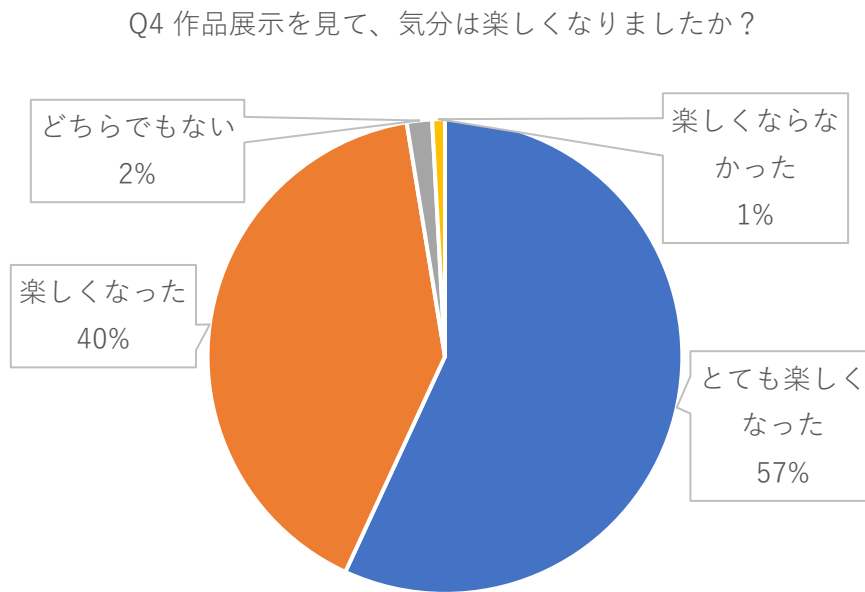


図 4-4 展示による気持ちの変化

表 4-6 展示による気持ちの変化

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	合計
とても楽しかった	17	15	9	8	7	9	1	66
楽しかった	4	3	4	9	10	14	3	47
どちらでもない	0	0	1	0	0	1	0	2
楽しくなかった	0	0	0	0	0	1	0	1
まったく楽しくなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	21	18	14	17	17	25	4	116

4.3.4 江別でのアート・デザインに触れる機会のニーズ

図4-5と表4-7に江別にてアートやデザインに触れる機会のニーズがどのくらいあるのかの結果を示す。96%の人が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。

Q5 江別で「アート（芸術）」に触れる機会をもっと増やしてほしいですか？

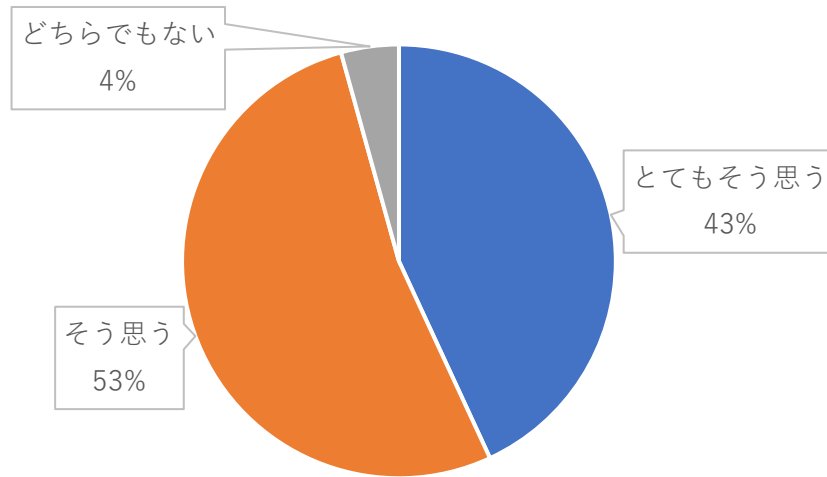


図4-5 アート・デザインに触れる機会のニーズ

表4-7 アート・デザインに触れる機会のニーズ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	合計
とてもそう思う	9	7	9	7	8	7	3	50
そう思う	12	9	5	9	8	17	1	61
どちらでもない	0	2	0	1	1	1	0	5
そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	21	18	14	17	17	25	4	116

アンケートの Q6 では、その理由を自由に記述してもらった（付録 3 参照）。コロナ関連と気持ちの変化に関する記述については次のようなものがあった。今回の展示はコロナ禍にあって少しでも江別の人々に明るさを与えたいと企画したものだが、そのようなニーズがあったことが確認できた。

- ・ コロナで元気がなくなっているの絵を見ることで楽しい気分になる人もいると思うため。
- ・ コロナ禍にあるので、少しでも明るい、光のような、灯のような展示があれば嬉しいです。
- ・ 今回、初めて見ましたが、とても楽しい気持ちになったので、これからもっとやってほしいと思いました。

江別でのアート・デザイン系のイベントに対するニーズについては次のようなものがあった。江別でもアートやデザインの展示の需要があることが分かる。

- ・ 江別で芸術系のイベントが少ない気がします。（個人の感覚です）江別でも身近に芸術に触れられる機会があればと思います。
- ・ 札幌と岩見沢に挟まれた「アートの空白地帯」を活性化してほしい。
- ・ 札幌まで見に行かなくても、気軽に立ち寄れる小さなギャラリーがあると、ちょっとした時間に見られる。
- ・ 身近なまちなかで生のアートに触れられると楽しいです。
- ・ アート好きですが、ほとんど展覧会って札幌なので。

以下は、近年ファミリー層が増えている江別で、子育て世代からの回答である。子育てが終わったあとのことも考え、江別の魅力を作っていく必要があることが分かる。

- ・ 江別に来たばかりで情報を手に入れられなかったものもありますが、子育ても少し落ち着いたので、またこういったアートに触れる時間がほしいなと思うようになりました。

また、次の投稿は江別におけるアートやデザインの会場に関するニーズである。具体的な意見もあり、江別のまちなかに今回のような形で市民の作品が展示できる場があってもよいのではと考える。

- ・ アートセラミックセンターは、市街地より遠く、車でないとなかなか行けないし、ガラス工芸館は一度行ったら、もう行くこともないし。大学も4つあるけれど、アート面では、発表の場はあまりないように思います。

・そもそも展示する会場が少ないように思う。

5. おわりに

本事業では、「江別スチューデント・アート・フェスタ」と称し、江別で初となるまちなかの2会場にて、アート・デザインの作品を展示した。作品は、北海道情報大学と北翔大学にてアート・デザイン系を学ぶ学生のものとし、各大学の特徴に合わせた展示内容とした。そこには、コロナ禍のストレスで閉塞気味になっている江別市民に、まちなかで「アート（芸術）」に触れ、少しでも明るく、元気になって欲しいという学生たちの願いがあった。アンケートの結果、この願いは少しはかなったのではと考える。いっぽう、展示をした大学生たちも、元気をもらった事業でもあった。長い間、オンラインの大学生生活が余儀なくされ、対面で友達にも会えなかった状況で、本事業はコロナの感染状況が少し落ち着いたタイミングで活動することが出来た。対面での準備や制作作業が出来、大学生の本来の活動を少しでも取り戻せた時間であった。

会場で行ったアンケート調査からは、江別市民にもアートやデザインに対し、もともと強い関心は持たないまでも、日常の中でアートに触れたいと思う人々がいることも分かった。また、江別においてアートに触れる機会や場所が少ないと感じている人もいることが分かった。子育て世代が増えている江別で、長い目で考えれば、アートやデザインに触れる場を整備し、子育て後も心を豊かにする、魅力ある江別を維持していくことは重要と考える。また、江別は札幌のベッドタウンともいわれるが、30～50代で札幌に通う会社員にとっても、休日札幌に行くことなく、江別にてアートを鑑賞する機会や場所が増えることは、日常生活を豊かにしてくれる大切な要素となると考える。これには、今回使用したJR野幌駅構内パブリックスペースなどのまちなかスペースの活用を更に推し進めることが重要と考える。

最後に、「江別スチューデント・アート・フェスタ」は、学生たちに江別での発表の機会を与え、また、普段の生活を送っているまちなかで市民にアートやデザインに触れさせる機会を増やす施策である。北海道情報大学情報メディア学部の入学定員は220人で、4学年でおよそ1000人の学生が学んでいる。北翔大学教育文化学部芸術学科の入学定員は50人で、およそ200人の学生が学んでいる。合わせておよそ1200名の学生が、アートやデザイン（と情報通信技術の組み合わせ）を学んでいる。その学生たちの最新成果の発表の場をここ、江別につくることは、市民の日々の生活と心の豊かさの向上と地域の活性化を促進させることになりうるのではないか。ぜひ、「江別スチューデント・アート・フェスタ」の継続を検討願いたい。

付録1：会場でのアンケート調査設問

江別スチューデント・アート・フェスタ アンケート

2021.10.30-31

本日は、江別スチューデント・アート・フェスタの作品を観ていただき、ありがとうございました。

北海道情報大学と北翔大学で①「アート」が人々の心にどのような影響を与えるか、②江別における「アート」のニーズについて調査しています。つきましては、次のアンケートにご回答いただけますと幸いです。

◆あなたについて

性別 男性 女性 年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代
以上

職業 会社員 会社役員 公務員 自営業 主婦 パート・アルバイト 学
生 無職 その他

お住まい 江別市内 江別市外
()

Q1 アート・デザイン系の展示会（含むオンライン展示）などをどのくらい観に行きますか？

週に1回は観る 月に1~2回観る 年に3~4回観る 年に1回位観る ほぼ
観ない 観ない

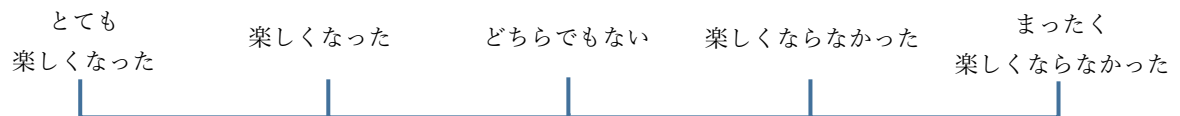
◆展示してある「アート作品」に関してお答え下さい。

Q2 作品展示はいかがでしたか？



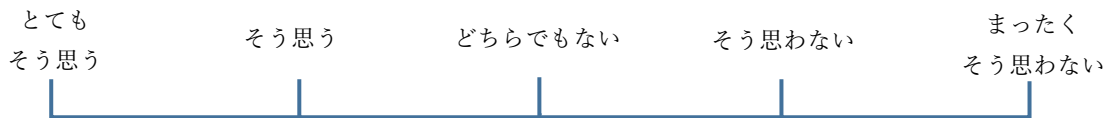
Q3 どのような点でそのように思いましたか？また、気になる作品、感想をお書き下さい。

Q4 作品展示を見て、気分は楽しくなりましたか？



◆江別における「アート（芸術）」に関してお答え下さい。

Q5 江別で「アート（芸術）」に触れる機会をもっと増やしてほしいですか？



Q6 その理由を教えてください。

設問は以上です。ありがとうございました。

付録2：Q3の記述回答一覧

Q3（Q2の「作品展示はいかがでしたか？」の回答に対し、）どのような点でそのように思いましたか？また、気になる作品、感想をお書きください。

<JR野幌駅会場>

- ・映像作品ねこのみーくんは、飛び出しているような感じがすごく不思議な感じ。（10代）
- ・色彩がすごくいいなと感じた。（10代）
- ・イラストがカワイイ。ネコのえいぞうをうつしている。ここ（円錐型のスクリーン）がすごいなとおもった。他であまりみないから（10代）
- ・アニメーションのできや、絵のクオリティがすばらしくてびっくりしました。絵に書いてある絵の具の質感などがリアルですごいいいと思いました。「撮り合う2人」は実写とアニメが混ざっていて驚きました。「ねこのみーくん」はねこがリアルでびっくりしました。（10代）
- ・アニメーションの点では、リアルな動き、シンプルで美しい色使い、二次元と三次元の融合が良いと思いました。・いらすとだと、ゆるく可愛い感じで絵の具の感じもやんちゃな感じで好きです。・足元には、星が散りばめられていて美しいです。（10代）
- ・左側の実写映像は、絵がアイス食べてるところがめずらしいと思った。（10代）
- ・遠くからでも目を引く作品でした。（20代）
- ・絵がすばらしく良かったです。（20代）
- ・実写との組み合わせが面白かった。（20代）
- ・色鮮やかで見ていてとても芸術的だと感じました。（20代）
- ・色彩が綺麗でした。普段見ないジャンルなので新鮮でした。（20代）
- ・実写とイラストの動画が良かったです。（20代）
- ・駅の中でパッと目につく明るい印象が良いと思った。アニメーションも丁寧な作りでステキだと思う。（20代）
- ・全体的に白っぽい色合いで可愛らしくて良かった。実写動画とアニメーションを組み合わせた作品がおもしろかったです。（30代）
- ・制作者の方の情熱がイラストやアニメーションになることで抽象化されてストレートに伝わるように思います。（30代）
- ・動画の技術がすごいいいと思った。（30代）

- ・かわいい。映像がよい。コメントがよい。(30代)
- ・絵がかわいくて、よく動いていて良かった。(30代)
- ・とてもかわいくて優しい世界でした。ねこちゃん。お話をお伺いできたことでお一人ではなくチームなんだなあと感じました。ステキ。(30代)
- ・「僕の花丸」(30代)
- ・三角の形でプロジェクター投影しているところ。・実写とイラストを組み合わせているところ。(40代)
- ・折り紙がすてき。ロトスコープがおもしろい。(50代)
- ・初めて観ました。改札から出て、気になって足をとめました。静止画、アニメーション、動画色々あって、楽しいなーと思いました。これからも、究めていってください。(60代以上)
- ・年代的にあまりピツとこないです。(60代以上)
- ・配置ほか(60代以上)
- ・ねこのみーくん→アナログな手書き感が心地よかった。・撮り合う二人→「実写のリアルと手描き」の良い意味での違和感が心地よかった。(発見!)(60代以上)
- ・アニメと実写の組み合わせがおもしろかったです。(60代以上)
- ・新しい視点でとても楽しくなります。(60代以上)
- ・線画が良かった(60代以上)
- ・今まで見たこともない展示でした。(60代以上)
- ・駅内が明るく感じたから。(不明)
- ・色遣いが心地の良いもので素晴らしいなと思いました。(不明)

<イオンタウン会場>

- ・「巡」(作品)が好きです。この作者の作品がほぼ好きでした。(10代)
- ・皆さんの作った作品を間近で見ることができて良かったです。(10代)
- ・デザインに関しては、シンプルにまとまったようなオシャレな感じがします。絵に関しては細かいところまで再現していて、美しさ、爆発的な印象があります。作品だとティーカップや額縁が浮いているのが印象に残りました。不思議です。(10代)
- ・驚くほど細かく、丁寧で綺麗な作品なので、とても良いと思いました。(10代)
- ・描いた人の個性が出て面白いなと思った。いろんな色が使われていてすごいなと思った。

(10代)

- ・空間デザインに興味を持ちました。一つ一つ丁寧に作られていて素敵だと思いました。(10代)
- ・1個1個が全部細かく綺麗でした。「束縛」という絵の色が好きな色で、とても目を惹かれました。(10代)
- ・頑張ってください。(10代)
- ・どれも手作りとは思えないほどすごかった。(10代)
- ・作品の展示の仕事がきれい。(10代)
- ・自身もデザインの学校に通っていたので、その頃の気持ちを思い出しました。作品タイトルのみではなく、解説もあるともつと一般層にもわかりやすいかなと思いました。(20代)
- ・流石、美術系学科。完成度も高くメッセージを強く感じ取れました。(20代)
- ・インテリア建築の作品が非常に細かく作られていて良かったです。(20代)
- ・「生きるということ」という作品の色使いがとても好きでいいなと思いました。(20代)
- ・服飾の学校に行っていた時のことを思い出して懐かしくなりました。ありがとうございます。(20代)
- ・友達作品を見に来たのですが、どれも素敵でした。(20代)
- ・様々な分野の作品が見られたこと。(20代)
- ・一口にアートと言っても、色々な種類(絵だったり、モノだったり)があって面白かった。(20代)
- ・食品とのコラボやパッケージなどどれも素晴らしい作品ばかりでした。(20代)
- ・子どもと一緒に作れそうなものもあり良いと思います。(30代)
- ・色々なジャンルの作品があって良かったです。色々あると楽しいですね。(30代)
- ・子どもが工作大好きなので、興味があったみたいです。(30代)
- ・どの作品も一生懸命に作っていることが伝わってきたので、素晴らしいですね。(30代)
- ・「束縛」という絵がどういう意味をなしているのか知りたかった。かっこよく目を引く作品。(30代)
- ・作品が見やすい。子どももぷらっと見られるので。(40代)
- ・学生の作品がたくさん見られて良かった。ゲームのパッケージデザインをしていてすごいと思った。(40代)
- ・建築作品など、いろいろな種類のもが見れて楽しかった。(40代)
- ・制作者のコメントも拝見したいです。佐藤ななみさんの「月みる本」が可愛らしく勉強にも

- なる仕掛け絵本で好きでした。スリーブの和窓もかわいい！(40代)
- ・ 絵画、ポスターのデザインに惹かれました。(40代)
 - ・ かわいい作品がいっぱいで心温まる。(40代)
 - ・ お土産みたいな箱が可愛かった。(40代)
 - ・ そのまま売り物になるようなデザインばかりで、そんな学習ができるっていいなと思いました。(40代)
 - ・ 絵、小物等可愛らしい物があり、見ていて楽しくなる作品でした。(40代)
 - ・ ショッピングセンターにこのような展示をしているのがとても新鮮でした。迫力ある絵や衣装に心が洗われるようでした。(40代)
 - ・ 色々な作品があり、面白かったです。(40代)
 - ・ miharu's tea room が好きです。可愛くて綺麗いで世界観が好きです。(40代)
 - ・ 各作品の創作テーマが書いてあるとよい。(50代)
 - ・ 証明がもう少しあるといいと思います。(50代)
 - ・ 全ての油絵(50代)
 - ・ 絵だけじゃなくて、色々な作品があって楽しかった。(50代)
 - ・ 円山での展示物とかぶっているものも多と思った。(50代)
 - ・ 全体的に完成度が高い。(50代)
 - ・ 学生たちの活動が見えて良かったです。(50代)
 - ・ 様々な作品があり、楽しく見ることができました。(50代)
 - ・ 独創性があり目を引く作品が多かったです。(50代)
 - ・ 作品がかわいい、格好いい、自然体。(50代)
 - ・ 「土間のある開放型住宅の提案」,「カムイと暮らす家」 こういう模型を自分で作ってみたいと前から思っていて、それを形にしてくれた。(50代)
 - ・ 素晴らしい(50代)
 - ・ miharu's tea room がかわいい、いい時代を思い出す。(50代)
 - ・ 観ていて心温まる。(60代以上)
 - ・ 発想がスチューデントととしては悪い!!! (60代以上)
 - ・ 若い人の想像力に期待したい。(60代以上)
 - ・ Zui デニムのドレスが素敵でした。(60代以上)
 - ・ 皆さんの作品が上手です。遊び心に溢れているように見えました。衣装のデザイン、仕上がりともに素敵です。(60代以上)

- ・ 発想が自由で良かった。(60代以上)
- ・ 自由なスタイル(60代以上)
- ・ 孫の作品をよく観てたので、皆さん頑張っているな。(60代以上)
- ・ ハロウィンが素敵!(60代以上)
- ・ ハロウィンが素敵(60代以上)
- ・ 「束縛」が好き!「ライオン」も優しい眼差し!(60代以上)
- ・ あっと驚くような作品ばかりでした。(60代以上)
- ・ 絵や作品が仕事のタネになる。(60代以上)

付録3：Q6の記述回答一覧

Q6 その理由を教えてください。（「Q5 江別で「アート（芸術）」に触れる機会をもっと増やしてほしいですか？」の回答に対し）

<JR野幌駅会場>

- ・ コロナで元気がなくなっているの絵を見ることで楽しい気分になる人もいると思うため。
（10代）
- ・ みるのが好きだから。絵もかいてみたい。（10代）
- ・ 私自身が絵を書くことが大好きなのと、見るのが大好きだからです。もっと絵を見たいです。（10代）
- ・ 私自身、アートが好きなので江別での魅力をもっと出しつつ、アートにももっと触れたいです。（10代）
- ・ オリジナルのアートをもっと増えて欲しいから。（10代）
- ・ 楽しい気持ちになれる作品はもっと見たいです！（20代）
- ・ 大変そう。（20代）
- ・ より多くの人に触れてほしいと思います。（20代）
- ・ より芸術に関わることができればセンスを磨くことができるから。（20代）
- ・ 芸術・美術が昔から好きなので。（20代）
- ・ 学生がたくさんいるので、展示をたくさんやってほしい。（20代）
- ・ 自分自身がなかなか触れる機会がないため。（20代）
- ・ 身近なまちなかで生のアートに触れられると楽しいです。（30代）
- ・ 街の魅力が高まるため。（30代）
- ・ あまり機会がない気がします。（30代）
- ・ 自分自身が大人になるまで触れる機会がなく、大人になってから”すばらしい世界があるんだな”と気づきを得たので！！！！触れる機会が増えることで表現する方が増えたら、とっても楽しそう！！（30代）
- ・ 日常や生活が芸術（アート）に触れるとすごく豊かになるので。感動したり驚いたり楽しかったり。（30代）
- ・ アートセラミックセンターは、市街地より遠く、車でないとなかなか行けないし、ガラス工芸館は一度行ったら、もう行くこともないし。大学も4つあるけれど、アート面では、発表

の場はあまりないように思います。ふろしき展（北翔短大？）はアートセラミックセンターで毎年あるみたいですが、もっと身近で触れる機会があれば良いと思います。

- ・ コロナ禍にあるので、少しでも明るい、光のような、灯のような展示があれば嬉しいです。

（60代以上）

- ・ いろいろなことを見て歩くことも必要とおもっていますが。。。 （60代以上）
- ・ 心が楽しくなります。 （60代以上）
- ・ 札幌と岩見沢に挟まれた「アートの空白地帯」を活性化してほしい。 （60代以上）
- ・ 緑が多いと思うので野外とか使って、なにか行ってほしいと思った。 （60代以上）
- ・ 描くことは出来ませんが、絵等はみるのが好きです。 （60代以上）
- ・ 娘が美術が好きだから。 （不明）
- ・ 歴史的な建物が多いので、それらとコラボしたアート作品などあっても良いのかなと思いました。 （不明）

<イオンタウン会場>

- ・ あまりアートなどに触れることはないのですが、機会が増えたら「また見よう」たり、「アートをすごいんだな」と興味を持つことができるから。 （10代）
- ・ いろいろなものがある町は素敵なので。 （10代）
- ・ アートにもっと関心や興味を持つ人が増えれば良いなと思いました。 （10代）
- ・ 芸術にふれられる機会を増やしてほしいです。 （10代）
- ・ もっと広い所で見たいです。 （10代）
- ・ 江別のアートの魅力を広げるとともに、このような幻想的な魅力がある所にしたい。 （10代）
- ・ 芸術(アート)の楽しさを多くの人に知ってもらいたい。 （10代）
- ・ そもそも展示する会場が少ないように思う。 （10代）
- ・ 江別に来たばかりで情報を手に入れられなかったのがありますが、子育ても少し落ち着いたので、またこういったアートに触れる時間がほしいなと思うようになりました。 （20代）
- ・ 新しい発見が増えるから(20代)
- ・ もっと海外を見てみたいなと思ったから。 (20代)
- ・ なかなかアートに触れる機会が多くないのでふらっと立ち寄ってやっていると入りやすいと思うので。 (20代)
- ・ 今回、初めて見ましたが、とても楽しい気持ちになったので、これからもっとやってほしい

と思いました。(20代)

- ・キラキラしたものを見るのが好きだから(20代)
- ・楽しむ場所を増やしたい。(20代)
- ・江別で芸術系のイベントが少ない気がします。(個人の感覚です)江別でも身近に芸術に触れる機会があればと思います。(20代)
- ・あまり(芸術に)触れ合う機会がないから。(20代)
- ・地元で気軽に見られると嬉しく思うので。(20代)
- ・子どもたちに絵を教えてほしいです。(30代)
- ・普段、アートに触れることがほとんどないから。(30代)
- ・自分自身の中に新しい発見がある。(30代)
- ・アート好きですが、ほとんど展覧会って札幌なので。(30代)
- ・あまりこちらに来る機会がないから。(40代)
- ・興味はあるが、わざわざ美術館には出向かないが、癒されるしワクワクするから、気軽に見られたらいいと思う。(30代)
- ・子どもが芸術に興味があるので、芸術に触れられる機会があるといいと思います。(40代)
- ・(芸術鑑賞の)機会がないので、子どもも楽しいと思う。(40代)
- ・(芸術鑑賞の)機会が少ないような気がしています。(40代)
- ・地元から芸術家が生まれるのはやはり嬉しいです。息子の幼稚園から中学校時代の同級生の名前と作品を見かけました。昔から絵が上手で、アート気質の子だったなと思いましたが、現在も芸術分野で素敵な作品を作られているようで嬉しいです！今後またどこかでお名前を見かけられるといいな。(40代)
- ・札幌にはありますが、地元、江別では機会が少ないと思う。(40代)
- ・作品を発表する場所、経験は多い方がいいと思う。(40代)
- ・学生さんたちの作品をもっとたくさん見たいから(40代)
- ・大人も子どもも楽しめる。子どもの興味をいろいろな場所で広げたい。(40代)
- ・頑張った作品はやっぱり観てもらいたいです。(40代)
- ・頭に空気が入ってくる感じで視野や心が広がるから。(40代)
- ・身近であれば札幌に出なくてよい(50代)
- ・楽しいから(50代)
- ・札幌まで見に行かなくても、気軽に立ち寄れる小さなギャラリーがあると、ちょっとした時間に見られる。(50代)

- ・小さな子どもも楽しめるところが増えると良いと思います。(50代)
- ・あまりにも少なすぎるからです。(50代)
- ・好きだから、遠くまで行かなくて済むから。(50代)
- ・江別には有名なアーティストがいます。彼らを含めてもっともっとアートの世界を広めてもらいたい。(50代)
- ・短時間で綺麗な作品を観たい。(50代)
- ・学生さん達から元気をもらいたいから。(60代以上)
- ・江別の絵画、音楽などのサークルが多く、熱心な人が多い。観る機会が多いと更に発展していくのではないだろうか。(60代以上)
- ・アートに限らず、全てが楽しみを持ってやってほしいです。(60代以上)
- ・アートは生活を豊かにすると思う。(60代)
- ・休日にふらりと出かけたから。気軽に楽しめる。(60代)
- ・ダンスもやってください。(60代以上)
- ・このような機会でなければ観ることができないから。(60代以上)
- ・絵画、映画、コンサート、舞台が好きだから。(60代以上)
- ・素晴らしい作品ばかりだから。(60代以上)
- ・好きだから。(60代以上)